

みんなで話し合い、みんなで取り組み、ふれあう集落・地域を目指して

砂山地域まちづくり新聞

Vol. 21
2018年
2月1日号

住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまりました。

報告会での意見交換の様子



平成29年7月から8月にかけて実施した住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまり、平成29年11月21日(火)、塩谷中央公民館を会場に、報告会を開催しました。

当日は、まちづくり協議会の代議員・運営委員を対象に、都岐沙羅パートナーズセンター理事の斎藤主税さんからアンケートの分析結果を報告いただいた後、出席者同士で意見交換を行いました。

アンケート結果の概要とポイントとは下記のとおりです。

アンケートにご協力いただき、大変ありがとうございました。

アンケート結果から見えるポイント

アンケート結果	ポイント
<p>回答者の属性</p> <p>回答者の半数近くが60代以上。(若い世代は少数派) 農業従事者の87.5%が60代以上。</p>	<p>世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する！ 将来的に農地の維持管理はどうする？</p>
<p>日常的な交通手段</p> <p>80代になると車を運転する人の割合が減少 (70代→80代:男性▲33%、女性▲50%)</p>	<p>日常生活での移動が困難になる人が確実に増加！ 移動の支援を考えていく必要があるのでは？</p>
<p>インターネットの利用割合</p> <p>全体の半数以上(52.1%)がインターネットを利用 (40代以下は約9割、50代でも約8割) (大半がスマホ・携帯で利用している人でした。)</p>	<p>50代以下はインターネットでの情報伝達が効果的! (閲覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある。)</p>
<p>地域活動への関心</p> <p>「関心はあるが参加していない」(34.7%)が最も多く、10代男性(39.8%)、20代男性(39.3%)、40代女性(46.8%)は、神林地区の他地域と比較して最も高い割合でした。</p>	<p>「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない。→「余裕がない」という理由が多く、多様な関わり方を設けることで参加の可能性は十分あるのでは？</p>
<p>「関心はないし参加もしていない」という人は若い世代に多く、20代男性(39.3%)、20代女性(55.1%)、30代女性(26.5%)が特に多いという結果でした。</p>	<p>参加しない理由を深掘りしていくことが重要！ 地域の中で少数になった若い人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？</p>

砂山地域では、若い世代の地域離れが進んでいる！

アンケート結果

ポイント

女性・若者の声を反映する必要性

地域全体では半数以上が「必要」と考えており、40代～60代の男性は約7割が「必要」と答えています。

役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと考えている。

声を反映させる場や機会の充実が必要では？



定住受入の必要性、他地域との交流の必要性

定住者の受け入れについては4割以上の人々が「必要」と考えているが、「わからない」という人も1/3
他地域との交流の必要性については「必要」と「わからない」がほぼ同じ割合(1/3)

人口減少対策として他地域からの移住・定住者の受け入れが必要と考えている人もいるが、今ひとつ実感がないという人も多い。

今後を考え、地域での十分な話し合いが必要？

この地域・集落に住み続けたいと思いますか？

砂山地域では「住み続けたい」と答えた人は56.4%で、神林地区5地域の中で最も低い割合でした。
特に10代～30代が、男女とも他地域と比べて低い割合となっています。

10代と20代は「住み続けたい」が30%以下だが、「住み続けたいと思わない」が多い訳ではなく、「わからない」が一番多い。

若者が住み続けたいと思う砂山地域にするには？

自分の子供にもこの地域・集落に住んでほしいと思いますか？

地域全体では「住み続けてほしいと思う」が43.3%で、これも神林地区の中で最も低い割合でした。
特に30代男女、40代男性が他地域より低く、「思わない」という割合も高いという結果でした。

子育て中の親世代(30代～50代)の「住み続けてほしいと思う」割合が低く、親世代の考えが子に影響する可能性がある!?

このままだと人口減少(流出)はさらに進行？

この地域・集落に愛着がありますか？

地域全体では「愛着がある」と答えた人は56.8%。
やはり若い世代(10代～30代)は、他地域に比べ「愛着がある」と答えた割合が低く、「愛着がない」と答えた割合が高い結果となりました。

砂山地域では、特に若い世代の「地域離れ」の傾向が進んでいる！

仕事があっても地域に愛着がなければ、地域に残る人は減っていくのでは？

地域・集落内で誇りに思っているものは何ですか？(複数回答)

誇りに思う地域資源のトップ5は	
①地域内の景観・自然環境	46.3%
②地域内の諸行事(祭り、イベント等)	32.9%
③地域内に暮らす人々	20.9%
④地域内の助け合いなどの社会関係	16.4%
⑤地域内の特産物(農林水産物、加工品等)	14.6%

砂山地域の素晴らしい地域資源(お幕場、大池、荒川、、田園風景等)や伝統行事(獅子踊り、七夕、お神輿等)を大切にし、盛り上げることが誇りになる!?

一方、若い世代になるほど、誇りに思っているものが「無い」と答える割合も高くなり、世代間の意識の違いにも目を向ける必要があるのでは？



人が減っても安心して暮らせる地域づくりが必要！

アンケート結果

ポイント

近所づきあいでの悩み(複数回答)

<p>全体の6割近くが「悩みなし」と回答 40～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「仲間がほしい」という悩みの割合が高い傾向</p>	<p>人が減っているのに、役割・仕事量が変わらなければ負担感が増すのは当然!? 今後さらに人が減れば、回らなくなるのでは？</p>
---	---

日常生活で不安に感じていること・困っていること(複数回答)

<p>不安・困りごとのトップ5は、</p>		
<p>①健康面への不安がある 18.7%</p>	<p>60・70・80代ではトップ。 →自分の健康について不安視している人が多い。</p>	
<p>②災害への備えや避難 17.0%</p>	<p>すべての世代で上位にランクイン。 →地域共通の課題として認識されている。</p>	
<p>③玄関先の雪のけなど冬季の除雪 14.8%</p>	<p>50代以降で上位にランクイン。 →年代があがるに伴い、困りごととして認識。</p>	
<p>④コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便 14.3%</p>	<p>10・30・40代、そして70・80代で上位に →30・40代は利便性を求めており、 10・70・80代は交通手段の確保が困難。</p>	
<p>⑤医師や科が少ないなど、医療体制が不便 13.6%</p>	<p>幅広い世代でランクイン(40代では第2位)。</p>	

※要注意(全体の順位は高くないが、特定の世代では順位が高いもの)

<p>⑧仲間と気軽に集まる場所がない 8.8%</p>	<p>10・20代で上位にランクイン(20代では第2位)。 →若者にとっては切実な問題！</p>
<p>⑪買い物・通院などの移動手段(交通手段) 7.2%</p>	<p>80代のみ上位にランクイン。 →少子高齢化が進むと、今後は更に増加する！</p>

取り組みの満足度と重要度の評価

<p>今後、重点的に取り組むべきテーマのトップ5は、</p>		
<p>①状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動</p>	<p>50代以上は圧倒的にこれが大切だという評価。 →今後も空き家は増える可能性が高い。</p>	
<p>②避難訓練・連絡体制など、防災活動</p>	<p>30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取り組みをさらに充実させる必要が!?</p>	
<p>③買い物・通院など、移動支援活動</p>	<p>特に30～60代が、最も必要性を感じている。 →親や祖父母世代の移動支援を求めている。</p>	
<p>④見回りなど、防犯・交通安全活動</p>	<p>30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取り組みをさらに充実させる必要が!?</p>	
<p>⑤婚活イベント・紹介など、結婚対策</p>	<p>70代以上が、この必要性を強く感じている。 →若い世代よりも、親・祖父母世代が心配している。</p>	

自由記入のご意見・ご提案など(抜粋)

・砂山地域まちづくりに参加してみている所ではありますが(これに限らず、他の活動・行事についても言われることですが)、参加する人たちはほとんど役員の方で、一般からの参加者はほとんどないということです。もっと役員まかせでなく、自ら時間を作って参加していけるような広報等で呼びかけて、一般の人たちも多く参加できれば良いと思っています。

・少子高齢化が進む中で、独り暮らし世帯が増え、空き家も増えています。空き家を積極的に活用する働きかけが必要です。又、独り暮らし世帯については、現在は独りで生活可能でも将来的なことを考えると地域で支える必要性を感じます。空き家や集会所、廃校(将来)を活用し、子ども食堂、地域の人が集まれる食堂(独り暮らしが集える)、気軽に集まれる場所(カフェ等)地域で支える対策が必要と考えます。

・勤めに出ているかたわら集落内の行事、施行するにも勤めが優先の社会で、集落内の行事が思うように運営できない今日である。勤め先の会社にも理解いただけるような働きかけが必要と思う。

・老人が増え、子どもが少なくなるのはしょうがないことだと思うし、無理をして10年、20年前のことを今現在の人口、頭数でやろうとしても無理があると思う。自然に任せ、なるように任せて、10年、20年後は無くなるものは無くなった方が良くと思う。

・この近くをよく通勤やお出かけするときに通るのですが、花壇に花がきれいに植えてありとても良いと思います。また、自然を守ろうという取り組みがこの近辺の地域では多い気がします。素晴らしいなと感じております。また、お祭り行事も子どもたちが少子化で少なくなっている中、大人と子どもが協力して頑張っているなど見ております。しかし、子どもの数が少ないことは避けられないので、他の地域から移住をしてもらえよう体制をとっていただければいいのかなと思っています。

・住んでいる集落は小さな集落です。小さいがゆえだと思いますがまとまりも良く、現在この集落で暮らしていることに不満はありません。心配なのは10年後、20年後です。子どもの数は少なく、高齢化が急加速している印象です。遠からず、今は行えている草刈りや側溝清掃、神楽等の伝統行事も行えなくなると考えられます。人口減少や高齢化をすぐさま解決するような特効薬はありません。なので、必ず到来する人口減少社会、少子高齢化社会にどううまく対応していくか、その時生きている人たちが人として尊厳や誇りを持って生きられるような地域・集落を目指す取り組みが必要だと思います。

・人口減少は避けられない問題で、減少した人口に合わせた自治運営・行事等ができれば良いと思います。人口が多かった時の感覚では無理が生ずると思います。

・私たちの地域では「お神楽」や「盆踊り」が無くなりました。また復活してほしいと思っています。先に立って行動してくれる人がいないのでとても残念に思っています。

※このアンケート調査は、中学生以上全員を対象に、神林地区の5つのまちづくり協議会が同時に実施しました。

【砂山地域】配布数:1,918通、回収数:1,467通、回収率:76.5%

地域の情報をおよせください。

ご意見・ご感想・問い合わせは

■ 神林支所地域振興課自治振興室

■ 電話・告知端末 66-6122

■ メール

k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

■ ホームページ URL

http://www.city.murakami.lg.jp/



※今回のアンケート結果の詳細については、村上市のホームページでご覧いただくことができます。
ホームページの右上ボタン(市民協働のまちづくり)からアクセスするか、インターネットで「砂山地域まちづくり協議会」を検索してください。

当協議会では、来年度から始まる第3期まちづくり計画(3カ年)を検討しています。このアンケート結果などをふまえて、各集落で話し合いを進めていただき、これからの地域づくりにつなげていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

1)意見をお寄せください